ジェンダーの視点で社会課題を考える授業の試み
―持続可能な社会の探究Ⅰ「国際協力とジェンダー」の授業から―

家庭科　葭　内　ありさ
保健科　増　田　かやの

1.　はじめに

本稿は、文部科学省より採択されたスーパーグローバルハイスクール（以下、SGH）として、2014 年から 5 年間にわたって実施した、持続可能な社会の探究Ⅰ「国際協力とジェンダー」講座の 5 年間の授業の試み[1)]と生徒の意識の変化を検討したものである。

本講座のねらいは、ジェンダーの視点を踏まえて、グローバルに諸問題を捉え発信し得る力を持つ女性リーダー育成を目指す。具体的には、教育課程の確立、世界各地で抱える貧困や紛争、女性の地位の低さの問題について現状を理解する。一方、女性の立場に配慮した援助や開発による、新たな問題解決方法について、世界各地の女性・男性のあり方や諸課題の背景を探る。解決・解消に向けて私たちにどのような協力ができるか、海外の高校生との連携や共同研究も視野に入れながら幅広い角度から考え、手法を探る。さらに、グローバルな問題を考えるとともに、自己のあり方、生き方、進路といったキャリアデザインも合わせて考えつつ、自ら探求した過程や成果について対外的に発信していく力を養うものである。

2. 5 年間の授業実践

2014 年度から 2018 年度に実施した講義の内容と生徒の探究成果について述べる。授業計画は、毎年変化している。1 年目は試行として従来通りの「総合的な学習の時間」を踏襲しつつ、お茶の水女子大学の教授陣による専門的な講義の時間を増やして、社会課題への気づきの機会を多く設けた。2 年目は、本講座全員が台湾研修の対象となったため、台北市立第一高級中学の生徒と社会課題解決に向けたプレゼンテーションとディスカッション、課題解決のための発信を主題として計画を立てた。3 年目以降は、台湾研修は一部の生徒のみが研修対象となったため、年間計画の前半は、社会課題を理解するための専門家の講義、後半は課題別にグループに分かれて探究活動を行う形に変更していった。次の項で詳細を述べる。

2.1.1. 探究活動のスケジュール

主に前半の授業では、お茶の水女子大学教授による講義やグループワークを中心に活動し、社会が抱える諸課題についてジェンダーの視点からの知識を深め、分析・検討を行った。講義計画については、表 2.1.1(1)「講義計画表」および表 2.1.1(2)を参照されたい。

表 2.1.1(1)　授業活動の概要（時系列）

年度	2014	2015	2016	2017	2018
海外研修	全　員	全　員	一　部	一　部	一　部
4 月	ガイダンス 性をめぐる社会問題とは?	ガイダンス ミニ発表会	ガイダンス ミニ発表会	ガイダンス 戸谷教授講義 ミニ発表会	ガイダンス 戸谷教授講義 ミニ発表会
5 月	戸谷教授講義 近藤准教授講義	フィールドワーク 戸谷教授講義 ミニ発表会	戸谷教授講義 フィールドワーク 領域内中間報告会	フィールドワーク 領域内中間報告会 ミニ発表会	フィールドワーク 領域内中間報告会 ミニ発表会
6 月	浜野教授講義	三浦教授講義 ミニ発表会	三浦教授講義 ミニ発表会	三浦教授講義 ミニ発表会	三浦教授講義 ミニ発表会
7 月	課題の確認	ミニ発表会 課題の確認	ミニ発表会 課題の確認 小玉教授講義	ミニ発表会 課題の確認	ミニ発表会 永瀬教授講義
8 月	課題	課題 台湾研修準備	課題	課題	課題
9 月	課題発表会 黒河内氏講義	課題発表会 台湾研修準備	課題発表会	課題発表会 JPX 模擬起業プログラム開始・JPX/ 光畑氏講師	課題発表会
10 月	台湾研修 探究活動	台湾研修 探究活動	探究活動	探究活動	探究活動 児玉氏講義
11 月	三浦教授講義	オリジナル啓発グッズ販売	オリジナル啓発グッズ販売		発信
12 月	論文作成	論文作成	論文作成	ジェンダー啓発イベント 論文作成	論文作成
1 月	論文発表会	論文発表会 発信活動	論文発表会 発信活動	論文発表会 発信活動	論文発表会 発信活動
2 月	成果発表会準備	成果発表会準備 発信活動	成果発表会準備 発信活動	成果発表会準備 発信活動	成果発表会準備 発信活動
3 月	成果発表会	成果発表会	成果発表会	成果発表会	成果発表会

教授らによる講義内容は次のとおりである。

表 2.1.1(2)　講義内容

大学教員氏名	講義内容
戸谷陽子教授	絵画や演劇を題材とした表象リテラシーを学び、育ってきた環境や身近にある広告などから受け取るアンコンシャス・バイアスについて考えた。
近藤るみ准教授	遺伝子学の見地から、性差の違いを理解し、ジェンダー問題が起因する事柄について考えた。
浜野隆教授	途上国の教育支援の必要性を学び、国際支援の在り方について考えた。
三浦徹教授・副学長	中東諸国の現状およびイスラム教や宗教と国際協力のあり方を学びその課題について考えた。
永瀬伸子教授	歴史的な背景や就労問題、働き方改革、少子高齢社会、社会保障制度、晩婚化など日本の社会課題を経済とジェンダーの視点で学んだ。
小玉亮子教授	日本の伝統行事、特に節句の祝いを題材に、政治・経済やその時々の社会情勢とジェンダーの関係性を多角的に捉える視点を学んだ。

その他、関係機関・卒業生による教授講義

・株式会社 MOHOUSE 代表光畑由佳氏：子育て支援に関する教授講義

・児玉谷レミ氏：大学においてジェンダー平等に関する研究をしている卒業生による、性的マイノリティーへの理解と LGBT に関する最新研究の紹介。

生徒に課した課題の一覧は下表のとおりである。

・ジェンダー啓発図書の読書
Facebook COO シェリル・サンドバーグのジェンダーに関する著書「リーン・イン」の読書を課し、その後に読書会を実施した。
・フィールドワークの準備
Plan International の事務局を訪問し、世界各地における貧困や紛争に苦しむ人々の状況を知り、その課題と解決策について、ジェンダーの視点から考えた。また、国際協力のキーワードである国連 SDGs について学び、教育格差や貧困など具体的な問題についても探究を行った。その他、自分たちが関心のある関連企業やＮＧＯ団体への訪問を実施した。

・ミニ発表会
日本及び海外のジェンダー問題についてミニレポート作成を課し、授業前にミニ発表会を実施した。2016 年度からは、それまでの反省を踏まえ、部分的に英語を使用して実施した。
・SDGs を学ぶ
国際協力のキーワードである 国連 SDGs については、2017 年度より 1･2 年次に担当者の教授講義（家庭科、保健科）の中で折に触れて学ぶ機会を意識的に取り入れ、さらに、本教授講義において教育格差や貧困など具体的な問題についても探究を行った。
・国際シンポジウムへの参加
2014 年 11 月 1 日国連大学ウ・タント国際会議場にて行われた、「サスティナビリティとジェンダー」に参加した。（主催：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、国連大学サスティナビリティ高等研究所）
・夏季休業中の課題
①探究レポート（1 学期に学習した内容を踏まえて、ジェンダーや国際協力に関わる社会課題を各自で設定し、調査内容や考察をレポートにまとめる）。 ②国連東京本部主催の高校生スピーチコンテストへの応募。 ＜結果一覧＞ 2016 年度　東京大会へ 3 名出場、1 名は審査員賞受賞　全国大会にて全国人権擁護委員連合会会長賞受賞、2 名は努力賞受賞 2017 年度　東京大会へ 3 名出場　3 名努力賞受賞 2018 年度　東京都大会へ 3 名が選出され、1 名が優秀賞、2 名が努力賞を受賞。

2.1.2　探究活動の記録

各年度で生徒が取り上げた探究テーマと探究方法、発信方法について、次表（表 2.1.2.1　生徒の探究テーマ一覧表）に示す。

表 2.1.2.1　生徒の探究テーマ一覧表

年度	生徒の探究活動
2014	お茶の水女子大学の教授、准教授による専門的な講義により、様々な社会課題についての気づきと課題解決に向けた話し合いを行った。また、台湾研修に参加した生徒（16 人中 15 名）は、台北市立会第一高級中学の生徒とジェンダーの視点で台湾と日本の現代の課題（CM、途上国の女子教育支援　等）についてプレゼンを行い、討論を行った。年度の後半は、

	それぞれが考えた社会課題について探究した内容を論文にまとめ、発表を行った。 生徒の論文テーマは、次の通りである。 ・ジェンダーの視点から教育を考える―隠れたカリキュラムの検討― ・教育におけるジェンダー問題―各国の現状と課題― ・女性と教育（パキスタンの事例、バングラディシュの事例） ・顔を失った女性たち―パキスタンの実情から― ・途上国の幼児教育における国際協力の必要性 ・日本における子どもの貧困 ・日本の難民認定制度の課題 ・マラウイ―飢餓の起きない村づくり― ・セクシュアルマイノリティーとジェンダーの関係性 ・日本で女性 COE を育てるために行うべきこと―フィリピンの現状を参考にする― ・女性の社会進出を促進する制度の導入、立法 ・なぜ世界中が男女平等とならないのか ・女言葉とジェンダー ・日本と台湾、韓国の関係性について
2015	全員 (16 名) 参加の台北研修を活用とした探究活動を行った。台北一女とのディスカッションのテーマについて生徒間で議論し、「児童労働」「女児の教育支援」をテーマとした。さらに交流準備として、①プレゼン班②広報班③チャリティー物品開発班に分かれ、夏休みにかけて班活動を実施した。夏休み課題として、本講座でこれまで学習した内容を踏まえて、ジェンダーや国際協力に関わる社会的課題を自分で設定し、調査内容や考察をレポートにまとめることを課した。９月からはそのレポート発表会を実施し、互いの発表内容について意見交換を行い、課題の明確化や解決に向けての考えを深めた。10 月は、台北一女との交流準備として、ディスカッションに先駆けて行う政策提言やプレゼンテーション用の電子ファイルの作成、「啓発グッズ」（後述）の作成、現地メディアへ連絡を取り、取材と ima-earth.com を通じての配信依頼を行った。台北研修には 16 名全員参加した。本講座は、台湾女性起業家協会副理事の Lai Pi 氏と台湾日本人会台北市日本工商会事務局総幹事の前田吉徳氏のお話を伺った。台湾における女性の社会進出や起業のエピソード、日台関係の現状と今後の展望など、ご自身の経験を混じえつつ、現地の方ならではのお話を伺うことができた。また、台湾大学にて台湾アイセックの学生との英語によるディスカッションや交流を行った。翌日に台北一女で行う課題解決のためのプレゼンテーションを見ていただき、意見を伺っ

	た。また、身近なテーマを話題に交流を図った。英語によるディスカッションを実施する上でも良いウォーミングアップの機会となったと考える。台北一女では、まず、全体会で児童労働などの問題提起を行うエシカル・ファッションショーを行った。家庭科やエシカルファッションブランドとも連携した企画は本校の生徒が行い、モデルは、本校の生徒と、台北一女の生徒が務めた。その後、「女児の教育支援」と「児童労働」のテーマについて、ジェンダーの視点から課題を示すプレゼンテーションを行った。2 グループ計 4 グループに分かれて、前述の課題解決策についてディスカッションを行った。台北一女の生徒は、学校を作るなど政府や国に働きかけるような意見を多く述べていたのに対して、本校の生徒は、途上国への支援として非政府組織、民間企業、個人レベルで実行できる内容が話し合いの中心となった。話し合いの方向性を調整することに手間取るグループや意思の疎通に苦慮する場面も見られたものの、価値観の相違を踏まえたうえで交渉をし続けることや、相手の意見に理解を示しつつも自分の意見を伝え続けることの大切さを学ぶ機会となった ＜女児の権利を訴える鉛筆と缶バッジ開発販売＞　本校の生徒からは、途上国支援としてオリジナルロゴ入り鉛筆を作成し、販売した利益を寄付することを提案しており、そのロゴデザインについても各班で話し合い、最後にコンペを行い、ひとつのロゴを決定させた。さらに、途上国支援の啓発グッズとして本校生徒が作成した手作り缶バッジを持参し、最終日に台北一女にてチャリティー販売を行った。台北研修終了後は、交流・活動内容をレポートにまとめた。11 月は、本校が毎年行っている公開教育研究会において、本講座の教授講義公開を実施した。台北一女において実施した、課題解決のためのディスカッションの成果と研修後の振り返りから今後の課題について、発表を行い、課題解決に向けて話し合いを行った。また、海外研修発表会の準備を行い、2 学期のまとめ（感想・討議）並びに年間テーマの確認を行った。1 月は、冬休み課題（個々で設定している年間テーマの論文）の発表を行い、レポート発表を聞いて意見交換を行い、考えを深める。また、課題解決のための発信活動として、台北一女の生徒たちと考えたオリジナルロゴ入の鉛筆と啓発用チラシを作成し、校内でチャリティー販売を行った。2 月は、年間テーマ論文の要旨の英文について、SGH 語学担当の非常勤講師による添削指導の機会を設けた。また Facebook を用いて、英語と日本語で自分たちの探究活動を年間に 6 回発信した。
2016	台北研修が一部の生徒のみとなったため、社会課題の近い生徒同士でグルーピングを行い、それぞれの課題に沿って探究活動を行った。 Google 班　課題：Doodle を利用したジェンダーの啓発活動について

	GoogleHP にある Doodle のデザイン募集を附属中学校、高校の生徒へ実施。募集の際に、ジェンダー問題に関するリーフレットを作成、配布した。 アイディア班　課題：Education First ～ Research → (to) Action ～ 都内にある大使館（イエメン共和国大使館・ノルウェー王国大使館・モザンビーク共和国大使館）の訪問インタビューを行い、各国のジェンダー問題に関する対策について比較検討を実施した。カンボジアの子どものためのオリジナル教材を現地語（クメール語）で作成し、関係団体を通じて現地で試用の後に改善したものを、製本して増刷し、カンボジアへ贈呈した。さらに全校生徒に呼びかけ筆記用具を集め、カンボジアへ送る活動や、人権団体主催の世界子どもの日チャリティーウォーク & ラン（マラソン大会）への参加を行った。 ポスター班　課題：女の子が抱える問題―日本が支援すべき理由― 途上国のおける女子教育の問題について探究し、啓発ポスターを作成、配布した。ジェンダー啓発オリジナルどら焼き販売の際に配布したジェンダー問題啓発のためのチラシを作成した。 ＳＮＳ班　課題：ＳＮＳで解決するジェンダー問題 ジェンダー問題を解決するためにＳＮＳを通じた啓発活動の可能性について探究した。社会課題は、主にＬＧＢＴへの理解と啓発とし各グループの活動報告やジェンダー問題のニュースなども発信した。 商品開発班　課題：どら焼きで世界を救おう オリジナルデザインを焼き付けたどら焼きを販売し、売り上げの一部を女子教育の支援団体に寄付した。また、校内で販売について意識調査を行った。 その他　他校や海外からの学生を交えた発表会で、英語でポスターセッションや交流を行った。
2017	後半から東京証券取引所（JPX）が実施する模擬起業体験プログラムを導入して、講座の特色を生かし、国連 SDGs に基づく社会課題を解決するためのソーシャルビジネスとしての模擬起業を４つのグループに分かれて行った。

模擬起業体験プログラム　日程と内容	
9 月 13 日（水）	JPX 担当者、教員によるオリエンテーション
10 月 4 日（水）	投資家への生徒によるプレゼンテーション・融資金授与会・起業家講演　ベンチャーキャピタリスト役：外部特別講師：MOHOUSE 代表光畑由佳氏・JPX、教員
12 月 17 日（日）	4 社合同の国連 SDG ｓ（ジェンダー、LGBT 問題）啓発イベント実施

	1月10日（水）　会計監査　　監査役：JPX 1月17日（水）　株主総会と会社解散　株主役：JPX、教員 グループ①：映画上映を活用したジェンダー問題の啓発活動として、啓発映画「GIRL RISING」（提供 Plan international）上映を中心に、有識者とのミニトーク（ゲスト：お茶の水女子大学ジェンダー研究所佐野潤子氏）、LGBT ワークショップ、販売からなるイベントを、他起業３社と合同で 12 月 17 日（日）12:15～16:25 にお茶の水女子大学講堂にて開催した。同時に、フェアトレードコーヒーとオーガニッククッキーを扱う千葉県館山市のカフェと交渉してオリジナル商品を開発し、自作のジェンダー問題解説リーフレットと共に販売した。 グループ②：途上国における女児の教育機会の平等のための啓発活動として、学校の使いかけのチョークや粉を再生した手作りのチョークを、上記イベントや附属幼稚園にて販売した。材料は、本学附属中学校をはじめ、他校に協力を依頼して集めた。同時に、途上国における女児の教育機会の平等を訴えるリーフレットを作成し、配布した。 グループ③：LGBT 問題啓発のためにオリジナルのワークショップ教材を開発し、上記イベントで LGBT ワークショップを実施した。また、神奈川県横浜市の菓子店に交渉して、LGBT を象徴する６色のビスコッティと啓発メッセージ入りの包装によるオリジナル商品とポストカードを開発し販売した。 グループ④：女性の就労問題を解決するための啓発活動として、都内で「なでしこ銘柄」に選定されている企業を訪問し、ダイバーシティ推進事業に関するフィールドワークやアンケートを実施した。その結果を踏まえて、特に男性従業員をターゲットに女性の就労問題解決のためのリーフレットを添付した飴を販売した。 なお、起業体験プログラムで得られた利益は、女性支援団体や LGBT 支援団体に寄付を行った。イベントや活動は、お茶の水女子大学ジェンダー研究所、外務省、法務省、（株）みずほフィナンシャルグループ、認定 NPO 法人国連ウィメン、ウィメンズアクションネットワーク、文京区等、複数の官庁、企業、NPO に後援を頂いた。12 月 23 日には、JPX と朝日新聞主催の高校生ビジネスプラン発表会にグループ①と④が参加し、グループ④は最優秀賞を受賞した。
2018	①ＴＷＣ～トランスジェンダーが使いやすいトイレとは～ LGBT をはじめとする性的マイノリティーの人たちにも使いやすいトイレ環境について、探究活動を行った。トイレの製造販売を行っている都内の企業へのフィールドワークや LGBT 当事者へのインタビューを行い、

	具体的なトイレのデザインを考案し、模型を作成した。さらに、制服コンテストに応募し、最終選考候補作品に選出された。 ②発展途上国の女子へおくる衛生向上計画 発展途上国の女子教育の重要性について探究活動を行い、その一環として、手作り石鹸と衛生環境向上のためのリーフレットを作成し、関係NGOを通じて現地へ贈った。さらに、リーフレットを読む前の後にアンケート調査を行った。 ③性的少数者を含む全ての人々が快適に過ごすことのできる制服作り 日本の制服が男女で固定していることへの問題点について、性的マイノリティーの当事者へのインタビューや大学の服飾研究者や制服を制作している企業へのフィールドワークを実施した。その成果として、だれでも快適に過ごすことができる制服を制作し、発表した。 ④表象とジェンダー　～ジェンダー格差をなくすには～ 洗剤のコマーシャルの性的役割分担やテレビのニュース番組のキャスター起用について、ジェンダーの偏りを調査することで、ジェンダーバイアスがどのようにして作られるのかを検討した。結果をまとめジェンダー格差への気づきを促すためのガイドラインを作成した。その成果を広く発信するため、都内の主要な新聞社にプレスリリースを行った。 ⑤女子教育と識字率 女子教育の現状と識字率の問題を探究し、社会問題として発信するため、絵本を作成し、公立図書館に依頼して、一定期間展示を行った。また、支援のための書き損じはがきを集めて、女子教育支援を行っている関係団体に寄付を行った。 ⑥男女共同参画社会実現～アンコンシャス・バイアスをなくすために～ 気づかないうちに体に染みついているジェンダーバイアス（アンコンシャス・バイアス）を払拭するためには何が必要なのかを大学の研究者へのインタビューや文部科学省へのフィールドワークなどを通じて探究した。その成果としてジェンダー啓発のためのオリジナルのしおりを制作して、文京区立の図書館に配布を行ったり、自分たちが選択したジェンダー啓発の内容が書かれている絵本の読み聞かせをお茶の水女子大学の学生とともに行ったりした。

2.3.3　授業評価

2014年度から2018年度まで実施した、SGH生徒意識調査から、本講座の授業評価を試みた。本調査は、毎年5月と12月に実施している。その結果をまとめたものが、次頁からの表2.3.3.2　SGH生徒意識調査（抜粋）である。

「SGHの取組は、面白そう」の問いに対しては、各年度ともに1回目に「大変そう思う」

と回答していたが、2 回目には逆転している傾向が見て取れた。通常の学習形態と異なる点や考えていた以上に自発的な行動や判断、外部機関へ交渉などへの負担感が大きかったものと考えられる。

「自主的に社会貢献や自己研鑽活動に取り組みたい」では、「大変そう思う」「ややそう思う」の割合は、どの年度もおおむね 8 割を占めているが、特に 2015 年度は、1 回目と 2 回目の比較をすると、「大変そう思う」が 25.0% から 43.8%に伸びている。台北一女の生徒との協働に照準を当てて取り組んだ年度であり、手ごたえもあったと考えられる。

「現代社会の諸課題について、もっと学習したい」では、「大変そう思う」「ややそう思う」と回答した割合は、どの年度も 9 割を占めていた。本取り組みが学習意欲の高まりに良い動機付けとなったと考えられる。

また、「必要に応じて他者と協力して活動を進められる」について「大変そう思う」と回答した生徒が、2016 年度では 5.6%から 22.2%、2017 年度では、26.3%から 35.0%に上昇した。2016 年度、2017 年度ともにグループワークを中心に探究活動に取り組み、その中で培われた他者との協働性がより意識化されたものと考えられる。

「課題を発見し、解決方法を考え探究する活動は将来の役に立つ」に対して「大変そう思う」「ややそう思う」の割合は、どの年度も 1 回、2 回目ともに 8 割を超えていた。

「英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝えたい」についても「大変そう思う」「ややそう思う」の割合は、どの年度も 1 回、2 回目ともに 8 割を超えており、英語を使ったコミュニケーションの大切さを実感していることが確認できた。

「事前に用意されたプレゼンテーションを流ちょうに行え、質問にも対応できる」については、「大変そう思う」「ややそう思う」の割合は、どの年度も他の質問項目に比べて低い値を示している。その中でも 2015 年度は、12.5% から 25.0%に上昇しており、台湾研修における英語でのディスカッションの経験が大きく影響していることが考えられる。

「論理的な思考力を高めたい」については「大変そう思う」「ややそう思う」の割合は、どの年度も 7 割から 8 割を占めている。また、「論理的な思考力を身に付けることは将来の役に立つ」についても「大変そう思う」「ややそう思う」との回答は、9 割を占めていた。論理的な思考力については、生徒の自己評価表（ルーブリック評価）[2)] に組み込まれているため、生徒の意識にも強く影響していると考えられる。

「探究の成果や解決策の提案、意見などを効果的に聞き手に伝えられる」「大変そう思う」「ややそう思う」の割合は、どの年度も 6 割台であった。これは、学校行事以外の場で発表する機会が他の講座に比べて少ないことが起因しているものと考えられる。環境や経済などのテーマでは高校生を対象とした発表会やコンテストは多くあるものの、男女平等参画社会やジェンダー平等、国際協力をテーマにしたものは少ない。機会が少ないということは、効果的に聞き手に伝わったかを確認することも困難な状況にあるということである。

「プレゼンテーション能力を高めたい」と「プレゼンテーション能力を身に付けることは将来の役に立つ」については、「大変そう思う」「ややそう思う」の割合は、各年度ともに 9 割を超えている。

SGH 生徒意識調査 2014年度から2018年度

(6) 1(1)SGHの取組は、面白そう...（ＳＡ）

		2018				2017				2016				2015				2014			
		選択（1回目）		選択（２回目）		選択（1回目）		選択（２回目）		選択（１回目）		選択（２回目）		選択（１回目）		選択（２回目）		選択（1回目）		選択（２回目）	
No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	12	60.0	4	20.0	2	11.1	4	22.2	10	52.6	6	30.0	15	93.8	11	68.8	11	68.8	6	37.5
2	②ややそう思う	5	25.0	9	45.0	8	44.4	8	44.4	4	21.1	7	35.0	10	62.5	3	18.8	4	25.0	9	56.3
3	③どちらとも言えない	2	10.0	6	30.0	5	27.8	3	16.7	4	21.1	3	15.0	1	6.3	2	12.5	1	6.3	1	6.3
4	④あまりそう思わない	0	0.0	1	5.0	3	16.7	3	16.7	0	0.0	3	15.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	⑤全くそう思わない	1	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3	1	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	162.5	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(14) 1(5)自主的に社会貢献や自己研鑽活動に取り組みたい...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	8	40.0	8	40.0	0	0.0	3	16.7	6	31.6	6	30.0	4	25.0	7	43.8	5	31.3	6	37.5
2	②ややそう思う	9	45.0	7	35.0	12	66.7	12	66.7	10	52.6	9	45.0	10	62.5	6	37.5	6	37.5	8	50.0
3	③どちらとも言えない	1	5.0	1	5.0	6	33.3	2	11.1	2	10.5	3	15.0	2	12.5	2	12.5	4	25.0	2	12.5
4	④あまりそう思わない	2	10.0	4	20.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	6.3	1	6.3	0	0.0
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3	2	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(28) 2(3)現代社会の諸課題について、もっと学習したい...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	10	50.0	7	35.0	3	16.7	4	22.2	13	68.4	8	40.0	9	56.3	12	75.0	11	68.8	8	50.0
2	②ややそう思う	8	40.0	11	55.0	13	72.2	11	61.1	5	26.3	10	50.0	4	25.0	4	25.0	5	31.3	6	37.5
3	③どちらとも言えない	2	10.0	1	5.0	2	11.1	2	11.1	1	5.3	2	10.0	3	18.8	0	0.0	0	0.0	2	12.5
4	④あまりそう思わない	0	0.0	1	5.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(30) 3(2)必要に応じて他者と協力して活動を進められる...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	5	25.0	4	20.0	1	5.6	4	22.2	5	26.3	7	35.0	4	25.0	2	12.5	3	18.8	3	18.8
2	②ややそう思う	12	60.0	12	60.0	9	50.0	12	66.7	10	52.6	11	55.0	8	50.0	11	68.8	12	75.0	11	68.8
3	③どちらとも言えない	2	10.0	4	20.0	8	44.4	2	11.1	4	21.1	1	5.0	3	18.8	2	12.5	1	6.3	1	6.3
4	④あまりそう思わない	1	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.0	1	6.3	1	6.3	0	0.0	1	6.3
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(31) 3(3)課題を発見し、解決方法を考え探究する活動は将来の役に立つ...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	13	65.0	8	40.0	5	27.8	7	38.9	11	57.9	14	70.0	8	50.0	12	75.0	12	75.0	12	75.0
2	②ややそう思う	6	30.0	11	55.0	12	66.7	9	50.0	5	26.3	6	30.0	5	31.3	2	12.5	3	18.8	4	25.0
3	③どちらとも言えない	1	5.0	1	5.0	1	5.6	2	11.1	2	10.5	0	0.0	3	18.8	2	12.5	1	6.3	0	0.0
4	④あまりそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(32) 4(1)英語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝えたい...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	14	70.0	16	80.0	10	55.6	13	72.2	15	78.9	16	80.0	14	87.5	14	87.5	13	81.3	14	87.5
2	②ややそう思う	6	30.0	2	10.0	6	33.3	2	11.1	4	21.1	4	20.0	2	12.5	2	12.5	3	18.8	2	12.5
3	③どちらとも言えない	0	0.0	2	10.0	1	5.6	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	④あまりそう思わない	0	0.0	0	0.0	1	5.6	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(40) 4(2)-8 事前に用意されたﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝを流ちょうに行え、質問にも対応できる（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	2018 選択（1回目） n	%	2018 選択（２回目） n	%	2017 選択（1回目） n	%	2017 選択（２回目） n	%	2016 選択（１回目） n	%	2016 選択（２回目） n	%	2015 選択（１回目） n	%	2015 選択（２回目） n	%	2014 選択（1回目） n	%	2014 選択（２回目） n	%
1	①だいたいできる	1	5.0	3	15.0	0	0.0	0	0.0	1	5.3	2	10.0	2	12.5	4	25.0	1	6.3	0	0.0
2	②できることもある	7	35.0	4	20.0	2	11.1	3	16.7	6	31.6	4	20.0	6	37.5	6	37.5	1	6.3	3	18.8
3	③どちらとも言えない	5	25.0	6	30.0	3	16.7	3	16.7	3	15.8	9	45.0	5	31.3	4	25.0	2	12.5	3	18.8
4	④あまりできない	6	30.0	7	35.0	8	44.4	8	44.4	9	47.4	4	20.0	3	18.8	2	12.5	11	68.8	6	37.5
5	⑤全くできない	1	5.0	0	0.0	5	27.8	3	16.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	6.3	4	25.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	20	100.0	20	94.4	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(49) 5(3)論理的な思考力を高めたい...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	14	70.0	16	80.0	11	61.1	13	72.2	15	78.9	14	70.0	9	56.3	11	68.8	13	81.3	13	81.3
2	②ややそう思う	5	25.0	3	15.0	7	38.9	3	16.7	4	21.1	5	25.0	4	25.0	5	31.3	3	18.8	3	18.8
3	③どちらとも言えない	1	5.0	1	5.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	1	5.0	3	18.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	④あまりそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(50) 5(4)論理的な思考力を身に付けることは将来の役に立つ...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	15	75.0	16	80.0	11	61.1	10	55.6	15	78.9	15	75.0	10	62.5	11	68.8	12	75.0	12	75.0
2	②ややそう思う	4	20.0	4	20.0	7	38.9	5	27.8	4	21.1	4	20.0	3	18.8	4	25.0	4	25.0	4	25.0
3	③どちらとも言えない	1	5.0	0	0.0	0	0.0	2	11.1	0	0.0	1	5.0	3	18.8	0	0.0		0.0	0	0.0
4	④あまりそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	6.3	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(51) 6(1)探究の成果や解決策の提案、意見などを効果的に聞き手に伝えられる...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	3	15.0	3	15.0	1	5.6	3	16.7	4	21.1	0	0.0	4	25.0	5	31.3	2	12.5	2	12.5
2	②ややそう思う	9	45.0	11	55.0	6	33.3	8	44.4	9	47.4	12	60.0	6	37.5	5	31.3	7	43.8	8	50.0
3	③どちらとも言えない	4	20.0	4	20.0	7	38.9	5	27.8	3	15.8	4	20.0	4	25.0	4	25.0	5	31.3	3	18.8
4	④あまりそう思わない	4	20.0	2	10.0	4	22.2	2	11.1	3	15.8	4	20.0	2	12.5	2	12.5	2	12.5	3	18.8
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(52) 6(2)ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ能力を高めたい...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	15	75.0	16	80.0	11	61.1	15	83.3	15	78.9	16	80.0	13	81.3	14	87.5	13	81.3	14	87.5
2	②ややそう思う	4	20.0	2	10.0	7	38.9	3	16.7	4	21.1	3	15.0	2	12.5	1	6.3	3	18.8	1	6.3
3	③どちらとも言えない	1	5.0	2	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.0	1	6.3	1	6.3	0	0.0	0	0.0
4	④あまりそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	6.3
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

(53) 6(3)ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ能力を身に付けることは将来の役に立つ...（ＳＡ）

No.	カテゴリー名	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	①大変そう思う	16	80.0	16	80.0	13	72.2	14	77.8	15	78.9	17	85.0	13	81.3	14	87.5	12	75.0	14	87.5
2	②ややそう思う	3	15.0	2	10.0	5	27.8	4	22.2	4	21.1	2	10.0	3	18.8	1	6.3	3	18.8	1	6.3
3	③どちらとも言えない	1	5.0	2	10.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.0	0	0.0	0	0.0	1	6.3	1	6.3
4	④あまりそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	⑤全くそう思わない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	6.3	0	0.0	0	0.0
	全体	20	100.0	20	100.0	18	100.0	18	100.0	19.0	100.0	20	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0	16	100.0

次に、同調査で記述式の「課題学習で大切なことは何か」に対する回答を下表にまとめてみた。これを UserLocal テキストマイニングソフト[3)] を用いて分析を試みたのが、図 2.3.3.3 である。

表 2.3.3.2　課題学習で大切なこと

2014 年度	2015 年度
興味・関心、目的意識 客観的に多面的に考えること なぜ、という疑問を頭の中に留めておくこと。 どうしてそのようなことが起きてしまうのかという原因の考察 いくつもの視点から見た内容を論拠にすること。 色々な文献を読み、客観的且つ論理的な考察をすること。 調査の正確さ、深さ、表現力の豊かさ。 正しい情報を選択する、メディアリテラシー！ テーマ設定の仕方 コミュニケーション能力 色んな立場から調べる物事を見て考えること。 発信の方法 調べた後、自分の考えを決めること。	わかりやすく簡潔に、要点を伝えること 情報源が何か常に意識しながら、多くの情報や意見に目を通す 自分が本当に追求すること。ゴールをしっかり見すえ、見失しなわないこと。 様々な側面から、様々な人の意見を基に考えること 知りたいと思ってとりくむこと。 自分の意見をもち、相手に伝えること。 共同でやるときにうまく役割を分担して負担の配分ができる力 論理的に研究内容をまとめること 自分なりの考察をすること 興味を持つこと、何もかもしっかりやること 興味をもつこと 調べたことをどのように発信していくか。解決法。
2016 年度	**2017 年度**
協力、分担、プレゼン能力の向上。 仮定すること。結果の前に。 自分の考えを固め発信すること。 深くまで掘り下げること、やる気 １つの情報に頼りすぎず、広い視点をもつこと。 外部の人と連絡をとり、情報を集めようとする気持ち。 調べたり、教えてもらったりして、知ったことをもとに、アクションを実際に起こすこと。 自分で考えて行動すること。積極性、コミュニケーション能力 正しい情報かどうかを見極める能力 他者と協力すること、活動を続けること 課題を見つけ幅広い視野で解決策を考えること。 信頼性の高い情報を選択して考察すること 協調性、自分で考え、自分達で出来ることを話し合って発信すること、疑問をもつこと	多方面から情報を得て考察すること。 テーマを1つに決めて、見失わないこと。 論理的思考力 自分が今まで行ってきたことを他者に評価してもらう能力（プレゼンテーション） 論理的に考えること 資料の中から、正しいものや自分が本当に必要としているものを選ぶ力。 実現可能性のある提案をすること 論理的な考えをもつこと 考察すること、継続した調査 論理的思考力、妥協しないこと 論理的思考力、プレゼンテーション力 論理的に物事を考えること てきせつなかだいをみつけること 自主的によりよい成果を追究すること。

2018 年度
調べる方法。情報の収集、取捨選択能力、グループで役割分担して協力すること。
適切な情報を用いて多角的に判断すること、積極性、協調性、筋が通っているかどうか。
課題決定を慎重にすること、自らの考えを発表し、他者の意見も含めてそれについて協議する力、論理的思考力、なるべく様々な手段で情報を得る。
たくさんの知識を得て、自分の意志をもつこと、客観的に考えること、計画性

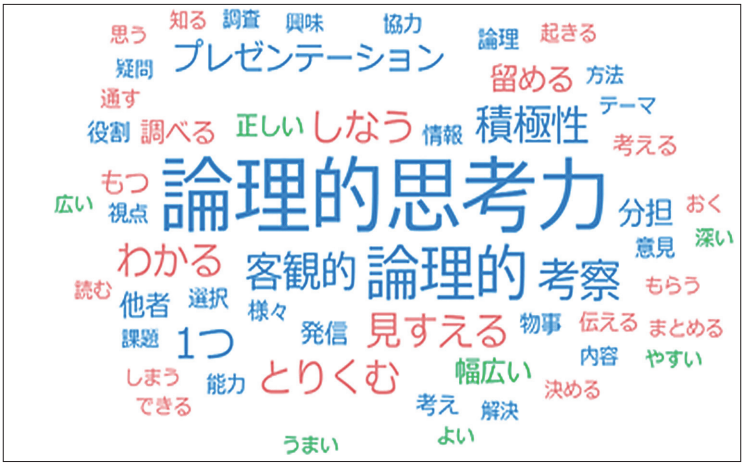

図 2.3.3.3 「課題学習で大切なこと」ワードクラウド

主に抽出されたワードは「論理的思考力」「客観的」「考察」「積極性」「見すえる」「とりくむ」「プレゼンテーション」などであった。そこには、いかに論理的思考力を持って、課題に取り組むかという姿勢と探究の成果を他者にわかりやすく伝えるかという命題を示している。

3. まとめと今後の課題

5 年間の実践を通じて、生徒たちには、協働的な態度を持ち合わせ、探究活動に積極的に関わる姿勢を持つこと、社会課題に真摯に向き合い、自分の考えを理論的に相手に伝えること、の大切さを身につけることを狙ってきた。

発信方法については、毎年異なる方法を模索してきた。成果発表会や領域内発表会において、2 年生から 1 年生へ探究のノウハウを伝えることで、探究の進め方や工夫を理解することができ、前年度の反省点を活かし、発信方法や内容が年々充実していった。特に、今年度の新聞チームについては、プレスリリースをマスコミに送ったことで、東京新聞が取材をしてくださり、それがきっかけで、他のマスメディアへ波及する効果を得ることができた。この発信の工夫や発展がみられたことは、生徒の発信することの意欲や技術的な意欲が高まっていたことが意識調査からも明らかとなった。

反省点として、生徒の探究成果を発信した後に、そのことが社会にどのような影響があったのかを確認する術を持ちえないことである。生徒のアクションに対する効果

をはかる時間の確保について、どのくらいの期間を置くのか、またどの範囲で効果測定を実施するのか、など様々な問題が挙げられ、引き続きの課題としたい。

探究Ⅱへの継続性を鑑み、より成熟した探究力、発信力を身に付けることができるよう、今後も継続的に授業を試みたいと考える。

本講座の目的に翻り、国際協力やジェンダー問題解決のために尽力する人材の育成というところでは、協調性、計画性、様々な調整能力などの他に意志力、決定力なども重要な要素である。意識調査の中にそれらと重なるキーワードをあげている生徒も多く確認できた。本講座を通して、少しでも実感することができたとすればそれも成果の一つと捉えることができよう。

毎年、授業内容を変更したことで、生徒とともに授業者の負担も大きかったが、それ以上に成果として得たものは大きいことを実感している。通常の授業形態では、出会うことが困難な、大学の研究者、NGO 団体で女性支援に日々活動をしている方々、企業でダイバーシティを推進する方々、SDGs を推進している省庁や政府関係機関の方々など数多くの方々との出会いが何よりも生徒への大きな学びを提供してくださったことであろう。

本講座で学んだ内容をさらに生かして、まずは自分らしく生きることを大切に、社会に有意な人として活躍し、未来の社会の形成を担う大人へと成長してくれることを期待してやまない。

4. 謝辞

本講座を実践するにあたり、大学の研究機関、関係省庁、企業の方々のご協力を得ましたことをこの場を借りて、御礼を申し上げたい。特に、文部科学省、外務省、法務省、PlanInternational・Japan 事務局、ブリヂストン株式会社ダイバーシティ推進部、三井住友銀行等の皆様におかれましては、生徒のフィールドワークへのご協力を賜り、生徒の探究活動への多大なるご支援とご示唆をいただいた。

引用・参考文献

1）SGH の概要については、お茶の水女子大学附属高等学校 SGH 報告書を参照されたい。

2）北原武（2017）批判的思考力を向上させる探究学習を目指して　お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要 ,63,p51

3）UserLocal テキストマイニングツール（https://textmining.userlocal.jp/results/spNWGv5eLA8yT1RWBJmhxJeH9qoFs61F）（2018 年 5 月 6 日最終閲覧）